

令和元年12月24日

東松島市議会議長 大橋 博之 様

(会派名) 松桜会

代表者氏名 小野幸男



### 会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、 研修費、 広報費、 広聴費、 要望・陳情活動費、 会議費

2 活動名称: 令和元年11月松桜会行政視察

3 実施期日: 令和元年11月25日~27日(3日間)

- 4 活動成果: 飯豊町についてはSDGsに本市と同じく選定され人口減少  
少子高齢化の中で過疎債を利活用して地域産業の活性化  
を図っている。  
見附市については国の交付金を活用し道の駅・企業誘致・健幸  
な町づくりに成功している数少ない自治体である。  
小千谷市については閉校した学校の再利用に、電気関係の企業  
が使用しやすく市が改修改善して企業負担を軽減し土  
地を貸し付け改修費は無利子の10年返済で取り決め本  
社機能も致し税収増に繋がっている。



## 福島県飯豊町行政視察研修報告書

日時 令和元年11月25日（月曜日）  
場所 飯豊町庁舎会議室  
出席者 飯豊町長 後藤 幸平・議長 菅野富士雄・副議長 遠藤 忠  
議員 川崎祐次郎・屋島 雅一  
説明員 議会事務局長 ・企画課長 ・総合政策室  
  
報告者 会派 松桜会 会長 小野幸男

視察項目 ①SDGs の取り組みについて

### 飯豊町の概要

山形県の西南西置賜郡の南東に位置し、東は米沢市及び川西町、西は小国町、南は福島県喜多方市及び新潟県新発田市、北は長井市に隣接している。全体として南北に狭長で総面積 329.60Km<sup>2</sup>を有する町です。肥沃な耕地を利用した農業地帯で良質米を生産し、丘陵地は肉牛の産地でもあり米沢牛の4割を生産している。南部は飯豊連峰に連なり山岳で覆われていて JR 米坂線と国道 113 号が東西に走り、仙台と新潟を結ぶ内陸横断ルートのほぼ中間点となっており交通上の要所となっています。

令和元年度の一般会計と特別会計を合わせて総予算額は 11,795,140 千円であります。

議員定数 10 人・人口 7,075 人 男 3,485 人 女 3,590 人 世帯数 2,360 世帯

「日本で最も美しい村」連合に加盟し、自然界での共生や都市との共生で必要な農村の機能を再認識し、将来の子どもたちと共に「ここに生まれて良かった」「ずっと住み続けたい」と心から感じられる町を創りあげていく、それが飯豊町です。

### ① SDGs について

第一次総合計画から手作りのまちづくりに取り組み、9つの地域がそれぞれにまちづくりに取り組んでいる。

**飯豊電池バレー構想**の推進では(1)山形大学 x EV 飯豊研究センターで宇宙用電池開発プロジェクトの開発を進めている。(2)専門職短期大学の立ち上げ、生徒数 198 名で 2021 年開校を目指している。(3)貸工場整備事業は飯豊で育てた人材などを地元や地域内への雇用に結び付けるため、2021 年 4 月の稼働を目指し新産業集積事業貸工場新築工事に着手。

**バイオマス資源プロジェクト**の推進では、バイオマス（再生可能な生物由来の有機性資源）を活用し健全な山の保護・保全と木質バイオマス・雪氷熱エネルギー利用（雪室低温貯蔵施設）飯豊型ペレットストーブ・家畜排せつ物の堆肥化や「やっぱり飯豊で暮らして幸せになる」エコタウン構想の住宅団地整備構想（低エネルギー型の新しい暮らし方

を提案し、人口の流出の歯止めも含め企業誘致と従業員増も視野に、光熱費の節約だけでなく高血圧やヒートショックを防ぎ、家族の生命・健康を守り快適で健康な暮らしを提供する住宅団地整備を行っています。また、家畜排泄物を利用したバイオガス発電事業プロジェクトでは整備面積は約 0.89ha 発電規模 500KWh で年間発電量は約 360 万 KWh です。肉牛が 660 頭・乳牛 400 頭・仔牛 130 頭で畜産業の振興に取り組んでいます。

#### **農村計画研究所と「日本で最も美しい村」運動**

まちづくりの当初から、住民参加型の「手作りのまちいいで」を推進し昭和 59 年、日本で初めての町立農村計画研究所を設立し、私たちの住む地域の価値の再認識・多様な主体の連携と地域の担い手づくり、さらには日本で最も美しい村の美の基準づくりのローモデルに取り組んでいる。(Villages in Japan 飯豊町)

#### **まとめとして**

山間の人口 7,000 人の小さな町ですが、同じくして昨年 SDGs に東北で 3 か所選定された縁もあり、飯豊の町長さんから是非飯豊に来て研修と友好を育みましょうと言われ今回の視察研修が叶いました。人口減少や少子高齢化は同じ自治体として共通する問題でありますが、細部にわたり今後の飯豊町の発展と活性化に並々ならぬ努力が伝わり将来見据えて、人材育成や若者向けのニュータウン構想も視野に町の空きや対策では、町が空き家を買上げリフォームして若い世代に貸すことでの定住化や U ターンの一助も担っています。

SDGs はあくまでも持続可能な開発目標であり、自分たちの取り組みを図る尺度、ものさしであり取っつきにくい理念をどのように理解してもらうか、自分事化できるかまた持続可能な社会のためには息の長い地道な取り組みが重要と捉えています。まさしくその通りであると同感で、SDGs は難しく考えないで一つの努力目標として、今あるものを見つめ直し改善しながら、新たな取り組みを模索しながら町の発展・市民の幸せに向かって邁進することではないかと、再認識する良い機会を与えていただいた実りある研修でありました。

さて本市としては、これから担当職員を始めとする市長執行部がどのような取り組みを議会に提案してくるのか、また議会も将来の方向性ある精査を念頭に議員各位の努力に期待し報告させていただきます。

## 新潟県見附市行政視察研修報告書

日時 令和元年 11 月 26 日（火曜日）

場所 見附市議会委員会室

説明員 農林創生課 副主幹兼農業振興係長

企画調整課 総合戦略室副主幹

報告者 会派 松桜会 会長 小野幸男

### 調査項目

- ① 「道の駅パティオにいがた」について
- ② 「スマートウェルネスみつけ」について

### 見附市の概要

新潟県の中央部に位置し、東に越後山脈・西に新潟平野を望み東西 11.5Km 南北に 14.7 Km・面積 77.91Km<sup>2</sup>の市域です。市の東側半分は丘陵地帯、西側の半分は平野部をなし、守門岳に源を発する信濃川水系の刈谷田川が市を南北に分けて流れています。

見附市は第 5 次総合計画の都市の将来像に「スマートウェルネスみつけ」の実現を掲げ、我が国が直面する超高齢化・人口減少社会によって生じる様々な課題を克服するため（健幸）をこれからのまちづくりの基本に据えた政策を実行しています。

見附市の令和元年度の予算は、一般会計・特別会計・企業会計合わせて 40,647,000 千円であり、人口は世帯数 14,936・男 19,718 人 女 20,847 人の計 40,564 人で、ほぼ本市と同じ位の規模で議員定数は 17 名ですが現員数は 16 名であります。市長はバリバリの民間出身であり、普通の自治体は予算の運用は出来ませんが、見附市は予算を効率よく運用するのではなしに経営に余念がなく、企業誘致・まちづくり・そして道の駅に取り組み成果を上げている数少ない自治体であると思料します。

### ① の道の駅パティオにいがたについて

平成 16 年の水害で破堤した刈谷田川の河川改修により発生した用地を、地域の防災及び交流の拠点として基盤整備が進められている中で、道の駅を整備し観光交流施設の創造と地域の活性化を図り平成 25 年 8 月 23 日 開駅

総事業費 9 億 9,900 0 0 万円の内訳

- ① 公園分 2億500万円
- ② 道の駅分 7億300万円（財源・社会資本整備総合交付金 55%）
- ③ 備品導入費 8,300万円（財源・県農林水産部補助金 50%）
- ④ その他費用 800万円（市の単独費）

#### 管理運営について

指定管理者制度（平成27年12月決定）

委託先・(株)豊栄わくわく広場（新潟市）農産物直売所4店舗と農家レストラン1店舗を経営

主な委託内容・ア) 農産物直売所及びレストラン運営

イ) 道の駅建物及び第1駐車場の維持管理

運営状況は平成30年度では・入場者数 1,160,645人

売上高 394,218千円 支出 388,853千円 差引 5,365千円で

利益の50%（2,682,500円は見附市に納入する）

一人当たりの客単価は1,000円から2,000円を見込む

雇用は駅長さん3名（シフト制）パート・社員37名

トイレの使用料は市が75%・業者が25%の負担で賄う。

#### その他として

道の駅には何が目的で立ち寄るのか？まず最初はトイレに寄るのが一番の目的であるとの事で、トイレ空間に工夫を凝らし国土交通省の日本トイレ大賞に輝き、また年間79回にも及ぶイベントを開催し集客に努めている。（道の駅に行けば何かやっている」とまで市民に周知されている。）

客層については、地元見附市が30%・長岡市30%・他市町村20%で県外ないし観光客数は1~2%程度であり正しく地元で愛される道の駅であります。また日本一の大風合戦や日本一の4尺玉による花火大会もあり代表されるお祭りです。

地方創生拠点としての機能・防災も兼ね備え、過去の度重なる水害を受けてきた歴史があり防災アーカイブコーナーを設置し、地元小学校が社会科授業で利用し地域災害の後世への伝承、防災意識の高揚にも活用され道の駅でヘリコプターを使用した防災訓練を実施するなど、より実践的な訓練を実施している。

本市におきましても、三陸道の矢本パーキングエリアを利活用した・道の駅・構想もあり、本市と同等規模の見附市を研修先に選定し市民に喜ばれる拠点になれるよう視察研修を行いました。

## ② スマートウェルネスみつけ

超少子高齢化・人口減少社会の到来で2040年には、人口が26%減の3.1万人に高齢化率が9.8ポイント増の38.9%になり、社会保障費の負担増（個人・国・地方企業）給付総額の増加とサービス内容の高度化と多様化の到来に備え、健康施策の推進が必要と捉え、いきいき健康づくりの4本柱として食生活・運動・生きがい・健（検）診を打ち立て様々な取り組みを行っている。

これまでの取り組みの結果としては、全国平均、県平均よりも低い介護認定率でH22～H24は3年連続1位（新潟県内20市中）

**健幸とは・・・**個人が健康、かつ、生きがいを持ち、安心安全に豊かな生活を営

むことができること。をまちづくりの基本に据えた政策の都市モデルSmart Wellnness City首長研究会・発起人会共同宣言を立ち上げ行政課題の研究・実践から政策提言へ（平成21年11月23日・7県9市令和元年11月現在会員 41都道府県99自治体に及ぶ。

明らかになった事実としては

①生活習慣病の発症には、地域の環境因子も一定の影響がある。

自家用車への依存度と糖尿病の患者数が連動

\*生活習慣病予防のため、厚生労働省の推奨する1日の歩数は8千歩～1万歩

②歩く効果は足し算可能だった

まとめて歩いても、分割して歩いても、歩く事による効果は同じと判明

病気は歩くことで予防・改善できる。歩くと医療費も抑制でき、今より1,500歩多く歩くことで一人当たり、年間約35,000円の医療費抑制相当の効果あり。

健康長寿・SWCの理念でまちづくりを転換し普段の生活で自然と必要な運動量が満たされる（歩いて暮らすまち）へ

◎健康になれるまち◎地域が元気なまち◎環境に優しいまち◎健幸を理解し行動

SWC施策を進める7つのポイント

- ① 社会参加（外出）できる場づくり・高齢者の外出を促すエビデンス。
- ② 中心市街地を中核とした賑わいづくり
- ③ 歩きたくなる快適な歩行空間の整備
- ④ 特徴的な取り組み 地域コミュニティの構築と協働のまちづくり
- ⑤ 過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備
- ⑥ まちをゾーニング
- ⑦ SWC推進のカギは人材

を掲げ、国の「地域活性化モデルケース」に選定された見附市の提案

- 施策1 コンパクトシティの形成・誘導
- 施策2 持続可能な集落地域づくり
- 施策3 地域公共交通の再生
- 施策4 中心市街地の活性化
- 施策5 地域包括ケアシステムの構築
- 施策6 総合的な住み替え施策の推進

また、コンパクトシティの道路施策・市の健幸施策を具現化したウエルネスタウンみつけ造成事業・産学官の有志による（スマートウエルネスコミュニティ協議会）でのモデル事業・健康情報の伝道師「健幸アンバサダー」を養成（510人養成済み）・健幸スポーツの駅を市内5ヶ所に設置・健幸ポイントプログラム（国の全国初の社会実験）・日本初となる飛び地での広域自治体連携「SIBヘルスケア事業」・などに取り組み  
第1回コンパクトシティ大賞 最高賞 国土交通大臣賞  
第5回プラチナ大賞 最高賞 大賞及び総務大臣賞を受賞  
2019年度SDGs未来都市に選定される。  
第3回先進的まちづくりシティコンペ国土交通大臣表彰を受賞（海外にも広く情報発信）

「健康施策」＝「健幸」と「地域再生」＝地方創生としてまちづくりについての  
研修報告とします。

# 新潟県小千谷市行政視察研修報告書

日時	令和元年11月27日（水曜日）
場所	小千谷市役所 401 会議室・中越住電装株式会社
説明員	議会事務局局長 議会事務局主任 教育委員会課長補佐 農林課 課長補佐
報告者	会派 松桜会 会長 小野幸男

## 調査項目

### ① [閉校校舎の活用について]

#### 小千谷市の概要

新潟県のやや中央南に位置し、新潟平野魚沼山間地の接点に位置し県境産地から日本海に注ぐ信濃川が市域を二分し、河岸段丘の多い緑豊かな田園都市である。

年間平均気温は 12.5 度 c、年間降水量は 3.000mm 前後で最深積雪量は平地で 200～250 c m、山間地で 300～400 c m にも及ぶ。

都市形態としては田園工業地帯で、面積 155.19 k m<sup>2</sup> 周囲 86.1 k m 東西 17.2 k m 南北 20.0 k m で、人口 35.466 人世帯数 12.720 世帯であります。

平成 16 年 10 月 23 日に中越大地震があり、震災の経験を次世代へ継承していくとともに、復興の中で見つめ直した地域の宝や生まれた絆を大切に、市民一人ひとりが輝き、その輝きが持続するまちを目指して、これからも進みます。

小千谷は「泳ぐ宝石錦鯉」「ユネスコ無形文化遺産小千谷縮」「世界最大級の花火四尺玉」「へぎそば」「中越大地震」が思い浮かばれる町で、日本一の大河「信濃川」による田園都市で雪深い地域でもあり、錦鯉は世界へ輸出されクールジャパンの一翼を担っており雪は我慢強く、勤勉な人間性を培い、その職人氣質は精密機械や電子部品産業の技術力として生かされ、世界に誇る当市の基幹産業に発展しています。

### ① 閉校校舎の活用として

小千谷市公共施設等総合管理計画に基づき、平成 22 年 1 月、小学校再編構想変更により、市立岩沢小学校が平成 25 年 3 月末で閉校することが決定し、平成 21 年 11 月に中



越住電装株式会社が当市農林課所管の「岩沢地域農業者等共同施設」に進出していたので、平成 24 年 1 月に市長が中越住電装の社長に対し、地域の活性化と休止施設の有効利用を図るため小学校の跡地利用を打診し、社内検討を重ね活用することになりました。

#### 利用する施設の概要

- ① 校舎 1 棟 (3 階建て R C 構造 2.110m<sup>2</sup>)
- ② 屋内運動場 1 棟 (平屋建て S 構造 868m<sup>2</sup>)
- ③ 施設用地 11.532.98m<sup>2</sup>

建物については無償貸し付け (終了時は解体して市に返還)

土地は有償貸し付け (従業員の駐車場等に利用)

注目点は、校舎の改修工事費等は市が行い、10 年分割で中越住電装が負担する。

進出の趣旨は、規模拡大ではなく将来に向けての再編成であり、平成 26 年 1 月 24 日には防災協定も締結し災害時の一時避難場所としている。

中越住電装の取締役・管理部長の南雲 弘さんに同行いただき、社内を視察させていただき丁寧に御対応いただいた後に意見交換の席にて、校舎利用に当たってのメリット・デメリットをお伺いしたところ唯一のデメリットは、耐震上 2 クラスを 1 クラスに広く改修することができないだけで、すべてにおいて仕事上はメリットだけであるとのお話でした。中でも体育館が部品製造工場として仕切りが無いので、自由自在に使用可能であることが結果として最大のメリットでありました。

行政側が設備投資を行い、分割払いにしたあたりは先見性があり、東松島市で取り組んでいるタイケン学園の誘致においても、もっといろいろな方向性も考えるべきであると考えさせられた実のある視察研修でありました。

今回は福島県飯豊町・新潟県見附市・小千谷市と 2 県 3 市町に渡り研修を行い、対応頂きました関係職員皆様に感謝申し上げます。